



連立政権のゲーム論的考察

政治行動論-5

・中山幹夫他編 2000. 『ゲーム理論で解く』有斐閣、8章
 ・Dodd, Lawrence 1976. *Coalitions in Parliamentary Government*. Princeton Univ. Press. 岡沢訳『連立政権考証』1977. 政治広報センター



不安定政権とその問題

- 島一区の比例代表制
- 多党制
- 連立政権
- 弱小政党が離脱することで政権が短命に終わる
- 長期的な政策の立案実施が困難
- 産業の停滞(たとえば観光、cf アルバ)



多党制・連立政権の実態

特徴3: Frenteの過剰代表
 1/3のバーゲニングパワー(3党の1つという意味で)

政党	得票	議席	政権
→ Frente	5,286	1	与党連合
M.A.N	18,141	6	
D.P.	13,879	4	
N.V.P	26,090	8	野党
S.I.	6,953	2	
P.A.S.	761	0	



連立政権形成過程の「パワー」指標

- SS(シャープレイ・シュービック)指標
 - 協力関係形成のすべての順序組み合わせで、ある政党が「ピヴォット(その参加でちょうど過半数を超える)」になり得る回数(全組み合わせ中の比率)でそのパワーを測定
- Bz(バンザフ)指標
 - ある争点についての賛否態度のすべての組み合わせにおいて、ある政党が「スウィング(その賛否を変更することで、採否を変更することができる)」である回数でそのパワーを測定 → 表8.3 p. 118



FrenteのSS指標

- 協力関係形成の組み合わせ
 - 5つの政党 → 教科書の例より複雑
 - $5P_5 = 5 \times 4 \times 3 \times 2 \times 1 = 120$ とおりに
 - すべての組み合わせを見る必要はなく、状況を整理して(Fの場所が、5つのどこにあるか順に整理しながら)、Frenteについてのみ数えることが可能



FrenteのSS指標

N=8, M=6, D=4, S=2, F=1 ピボットの回数

F ← x ← x ← x ← x 0
 x ← F ← x ← x ← x 0
 (この2つのポジションでは、Fがピボットはあり得ない→過半数側にすでにいるか、すでにそうでないか。)

x ← x ← x ← x ← F 0
 (先頭からの4つが8,6,4or2の組み合わせなので...
 いずれの組み合わせも、その他ですでに20=過半数)

x ← x ← x ← F ← x 0
 (最後が2,4,6or8、つまり、その他で18~12=過半数)

x ← x ← F ← x ← x 4
 (最初の2つで、10の時にピボットに)
 8 ← 2, 6 ← 4, 2 ← 8, 4 ← 6

SS = 4 / 120 = 0.033



FrenteのBz指標

- 賛成・反対の組
 - 5つの政党 → 教科書の例より複雑
 - Frenteを除いた4つの政党で場合分け
 - NからDまで、それぞれに賛成・反対
 - $2 \times 2 \times 2 \times 2 = 16$ とおり



FrenteのBz指標

N	M	D	S	
8	6	4	2	Fがスイングとなれるか
Y	Y	Y	Y	
Y	Y	Y	N	賛成か反対の合計が10の時
Y	Y	N	Y	
Y	Y	N	N	
Y	N	Y	Y	そのそれぞれについて
Y	N	Y	N	FがY or N
Y	N	N	Y	
Y	N	N	N	
N	Y	Y	Y	つまり、 $2 \times 2 = 4$
N	Y	Y	N	
N	Y	N	Y	
N	Y	N	N	
N	N	Y	Y	
N	N	Y	N	
N	N	N	Y	
N	N	N	N	

$Bz = 4 / 32 = 0.125$



D.P.のSS指標

N=8, M=6, D=4, S=2, F=1

FrenteのSS = $4 / 120 = 0.033$

	ピボットの回数	
D ← x ← x ← x ← x	0	
x ← D ← x ← x ← x	1	
(最初が8の時だけ)		
x ← x ← x ← x ← D	0	
(その他ですでに 17)		
x ← x ← x ← D ← x	1	
(最後が8、つまり、最初の3党で9の時だけ)		
x ← x ← D ← x ← x	8	
(最初の2つで、10~7の時にピボットに)		
(8, 2) (2, 8)		
(8, 1) (1, 8)		
(6, 2) (2, 6)		
(6, 1) (1, 6)		

SS = $10 / 120 = 0.083$

(議席数では4倍だが) 4倍とはならない



D.P.のBz指標

FrenteのBz = $4 / 32 = 0.125$

N	M	S	F	
8	6	2	1	Dがスイングとなれるか
Y	Y	Y	Y	
Y	Y	Y	N	N,Mで過半数
Y	Y	N	Y	
Y	Y	N	N	
Y	N	Y	Y	
Y	N	Y	N	M以外で過半数
Y	N	N	Y	
Y	N	N	N	
N	Y	Y	Y	
N	Y	Y	N	
N	Y	N	Y	M以外で過半数
N	Y	N	N	
N	N	Y	Y	
N	N	Y	N	N,Mで過半数
N	N	N	Y	
N	N	N	N	

この6つの場合

そのそれぞれについて DがY or N

つまり、 $6 \times 2 = 12$

$Bz = 12 / 32 = 0.375$

4倍とはならない



SS指標・Bz指標の問題点

- 政党間の政策立場についての親和性(連立しやすさ)について考慮しない
 - 政策軸上の順番が考慮されない
A --- B --- C --- D --- E
・Bは、Dとの協力の前に、AかCとの協力を検討するだろう
 - 政策態度の距離が考慮されない
A ----- B - C - D -- E
・Bは、Aとの協力の前に、Dとの協力を検討するだろう
- 政党間の「信頼関係」について考慮されていない
 - 「距離」は大きくても、党内協力が確実な政党を優先する場合もある



Doddの連合政権考証

- リサーチ・クエスチョン
 - 「連立内閣は単独内閣に比べて短命である」との命題(Lawrence Lowell 1896以来)は正しいか
 - 何が連立内閣の性格を決定するか
 - そのことが、内閣の永続性にどのように影響を与えるか